

# 松坂よしのり議会活動報告！



Profile 明治大学大学院公共政策学修士課程修了・国務大臣政務秘書官（金融担当大臣付）・流通経済大学法学部自治行政学科客員講師  
 千葉市議会 防災・危機対策推進特別委員会委員長・都市建設委員会委員長・教育未来委員会委員長・総務委員会委員長（現職）  
 市政に関するご意見・ご要望をお待ちしております。政務活動事務所 〒261-0001 千葉市美浜区幸町2-21-104  
 TEL043-244-7737 FAX043-244-7768 メール matsuzaka@m-sup.com

明けましておめでとうございます。昨年は皆様のご指導を頂きながら市議会にて活動させていただきました。厚く御礼申し上げます。市政に送っていただいてから8年目を迎え、2期の任期中、議会最多の27回の一般・代表質問を行いました。ふり返ると2期目の議員としてのスタートは3年10ヶ月前の東日本大震災直後でした。私も市議会初の防災危機対策特別委員会委員長を任せ、美浜区内の復旧と災害対策に日々努力してまいりました。これからも皆様のご意見を市政に届け、山積する課題に微力ながら取り組んでまいります。

### ★京葉線・りんかい線の相互直通運転について H26.12月議会代表質問 自民党会派を代表し質問をしました。

**【質問】**2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定し、首都圏における鉄道ネットワークは、大きく変化してきています。国では、東京圏における鉄道のあり方について調査・研究し、次期交通政策審議会への答申に向けた動きを行っているとの聞いています。本市もこの動きに対する措置として、京葉線・りんかい線の相互直通運転をはじめ各鉄道会社間の相互乗り入れなど鉄道輸送強化・改善を関係者に強く働きかけるべきと考えます。



1点目は、京葉線・りんかい線の相互直通運転の実現への取り組み状況について

2点目は、国における次期交通政策審議会への答申に向けた本市の取り組みについて、伺います。

**【答弁】**新木場駅などにおいてアンケート調査を実施しました。アンケート調査では、利用者の関心度が高く、相互直通運転の実現に向けた期待の現れと感じているところであります。現在、アンケートの集計を行い、分析を行っております。その結果を鉄道事業者などの関係者に提供するとともに、引き続き実現について要望活動を実施します。

**【答弁】**本市としては、鉄道ネットワークを取り巻く状況の変化に的確に対応するため、次期答申に「京葉線・りんかい線の相互直通運転の実現」、「市川塩浜から新木場間における京葉線の複々線化」、「羽田空港アクセス線構想の促進」、「京葉線の中央線方面への延伸」、「総武線と京葉線を結ぶ接続新線の促進」などを位置付けできるよう、国に要望して参ります。

**【要望】**京葉線・りんかい線の相互直通運転については、京葉線利用者、通勤者から多くの要望が上がっています。実現に向け、努力をお願いするとともに、千葉臨海部へのアクセスがこれまで以上に向上するよう、強く求めておきます。東京都心部と千葉とのアクセスが向上することは、経済上も望ましいことと考えますので、積極的な方向で議論されるよう求めておきます。

### ★議員定数削減(54人→50人)がやっと実現！ プロフェッショナルな少数精鋭の議会を目指して！

私の所属する自民党会派は、以前より議員定数の削減を主張してきました。現状の54人の定数では多すぎるとの判断で、9議席減の45人を提案してまいりました。なぜなら財政効果の得られる議員定数の大幅な削減が必要と考えたからです。しかしながら、自民党会派以外すべての他会派から、大幅削減が認められませんでした。それでも財政削減の立場や議員自らが積極的に身を削るべきとの考えから、自民党会派は積極的に他会派を説得してきました。その結果、4人削減の定数50人までならと言う事で、一部の会派が理解を示してくれました。この数では本意ではありましたが、一つのステップとして実を取りました。自由民主党所属の市議会議員は現在54人中17名しかおりません。千葉市議会では野党なのです。大幅な定数削減と財政効果の求めるとも一党派ではどうにもならないのが現状です。これからも、市民目線でさらなる大幅な定数削減を目指します。

### ★国民健康保険事業の累積赤字について 平成26年第3回定例会一般質問 市政の課題と美浜区の諸問題！！

**Q.** 国民健康保険事業の累積赤字は、現市長の就任後2年連続で一般会計の繰り入れが行われなかったことで、一時は119億5,200万円に達し、平成25年度決算でも、累積赤字は98億9,400万円となっております。国民健康保険の赤字は、連結実質赤字の発生要因となっており、見せかけだけ、一般会計の黒字を確保したところで、財政状況は連結ベースで見なければならず、市の財政が赤字である事実には変わりありません。数字のマジックで市民に本当のことを伝えないことは問題であります。国民健康保険は財政基盤も弱く、厳しい運営環境が続いていることは承知しているが、高齢化が進む状況で、ここまで赤字を累積させたケースは全国的に見ても多くありません。なぜ赤字を放置してきたのか。

A. 平成19年度に収支不足の全額を一般会計からの繰入金で補填することができず赤字が累積したものであります。

**Q.** 国民健康保険事業財政健全化は、これまでどのような取組みを進め、その成果はあがっているのか。

A. 歳入面では電話催告、徴収体制の強化、歳出面では後発医薬品の利用促進等対策に取り組んでまいりました。

**Q.** この累積赤字をどう処理していくのか、伺います。

A. 単年度収支改善に努めるとともに、一般会計の収支状況の繰り入れを実施し、国保事業の累積赤字の削減に努めてまいります。



### ★首都圏直下型地震における道路・下水の被害予測について

**Q.** 首都直下地震は、30年以内に70%の確率でマグニチュード7クラスの地震が起こるとされており、首都直下地震が発生した場合の被害を予測し、今からその対策について考えておかなければならないと強く認識しています。首都圏直下型地震が発生した場合、本市の道路や下水道管渠について、どのような被害予測をしているのか。

A. 道路の被害予測は、通行の確保に2カ月程度と予測されております。下水道管渠被害予測は、市域全体で5.2%の被害発生を予測しております。

**Q.** 下水道管渠の耐震化の実績と今後の取組みについて伺います。

A. 美浜区などで対策を進め、平成25年度末現在で市域全体の41%の管渠について耐震化が完了しており、今後トイレ機能などを継続して確保できるよう、地域の緊急輸送道路下に埋設されている管渠などの耐震化を進め、被害軽減に努めてまいります。

**Q.** 首都圏直下型地震の被害予測を踏まえ、それぞれ復旧までをどのような工程で進めていくのか。

A. 道路については、被災状況を把握し、まずは瓦れきや土砂の撤去などの応急工事を行い、緊急活動や物資輸送などの交通を確保、ライフラインの復旧後、道路の本復旧工事を行います。